

B 私たちがめざす道路整備イメージ〈補助第54号線（東側）及び世区街第10号線（街路部分）〉

「私たちがめざす道路整備の考え方」に基づき、具体的な整備イメージをまとめました。

考え方① 歩く人が中心のまちとして、安全安心な歩行者の動線を確保

- 上部利用空間と駅をつなぐ歩行者動線を確保したい。
- 歩道と車道の境界に必要な施設は、植樹帯ではなく、歩行空間をより広く確保するため横断抑止柵を安全性に配慮して設置したい。
- 歩道内の歩行空間を十分に確保するため、街路樹は車道寄りに植えたい。
- 歩行者が休憩や交流の場として活用できるベンチを設置したい。
- 安全な明るさを確保するため、街路灯を設置したい。

考え方② 補助第54号線西側及び世区街第10号線を車両通行止めにして利活用する際に必要な機能を確保

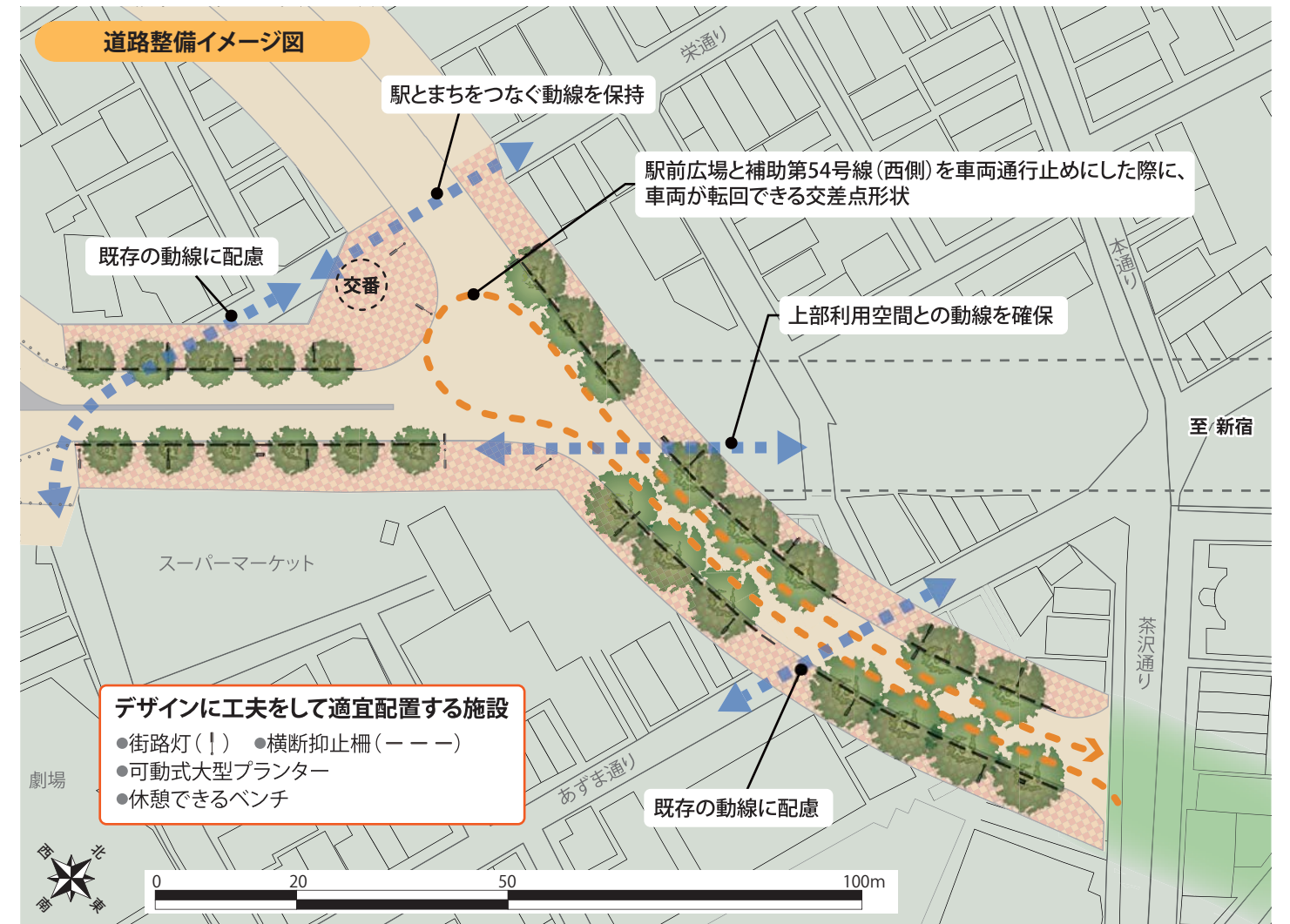
- 交差点部は車両が転回できる形状としたい。
- バス等の利用者に配慮し、車両を通行止めにする際の乗降場について工夫をしたい。
- 世区街第10号線は車両を通行止めにして利活用する際を想定し、取り外しのできる横断抑止柵としたい。

考え方③ 駅前広場への動線として、車両通行機能を確保

- 自動車の乗り上げを防止するために、車道と歩道の境界部には段差を設けたい。
- 道路による地域の分断に配慮し、横断しやすい工夫をしたい。

考え方④ 日常的な利活用を想定し、歩道の設え方を工夫

- すべての施設は、景観の統一感やデザイン性を重視し、ナチュラルなイメージで景観を統一したうえで、部分的にオリジナリティあるアートなデザインを取り入れたい。
- 空間を広く確保するため、植樹帯ではなく植樹ますと可動式大型プランターを設置したい。
- 歩行者の通行や沿道店舗への影響を考慮し、車道寄りでの利活用することを想定したい。



取り外しができる横断抑止柵のイメージ



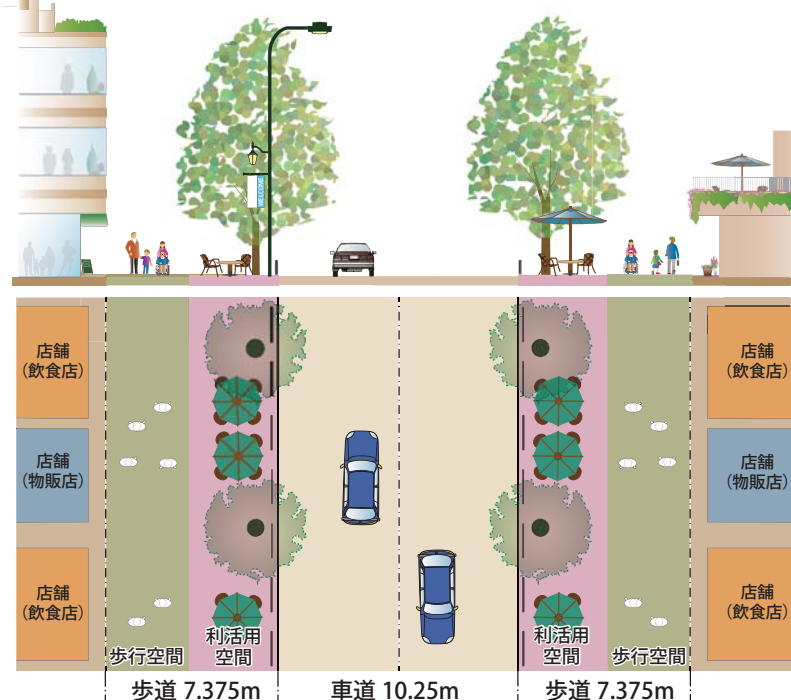
可動式大型プランターのイメージ



空間を広く確保できる植樹ますのイメージ

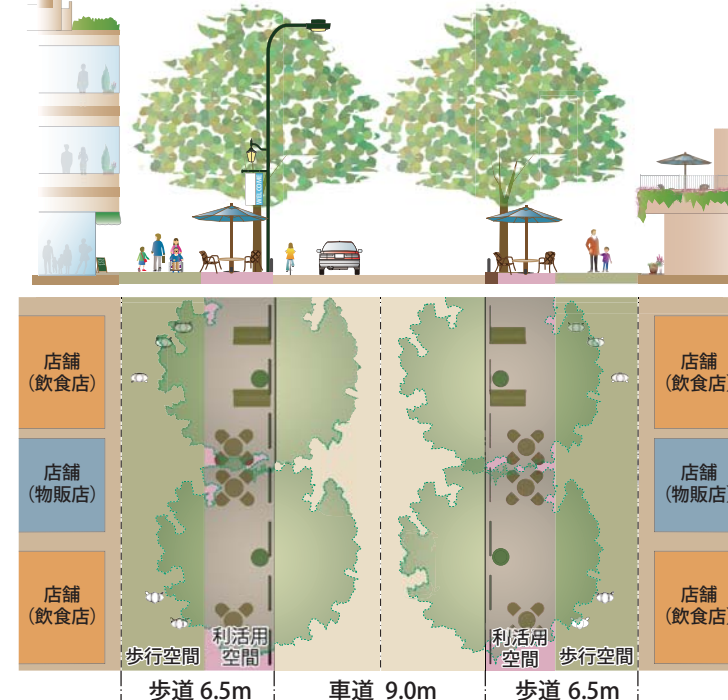
日常的な利活用イメージ図〈世区街第10号線(街路部分)〉

十分な歩行空間を確保した上で、街路樹間などの利活用を想定。



日常的な利活用イメージ図〈補助第54号線(東側)〉

十分な歩行空間を確保した上で、街路樹間などの利活用を想定。



利活用イメージ写真



歩道でのオープンカフェのイメージ



歩道でのマルシェのイメージ(中野恒明先生提供)

C 私たちがめざす道路整備イメージ〈世区街第10号線(駅前広場)〉

「私たちがめざす道路整備の考え方」に基づき、具体的な整備イメージをまとめました。

考え方① 歩く人が中心のまちとして、すべての利用者に配慮した駅前広場

- 歩く人が中心のまちとして、歩行者動線は十分なゆとりを保ち、駅とまちとのスムーズな動線を最短距離で確保したい。
- 高低差部分の動線は、昇降しやすく、かつ十分な幅の階段を主動線として確保したうえで、車いす、ベビーカーなどすべての利用者に配慮してスロープを整備したい。
- 駅改札口付近は「下北沢の顔」となるだけでなく、災害時に人が集中すると想定されるため、ゆとりある滞留空間や十分な歩行者動線を確保したい。
- エレベーターを整備する際は、歩行者動線や滞留空間に配慮し設置したい。
- 歩行者動線を確保したうえで、待ち合わせ用のベンチや植栽等を設置したい。
- 東側道路(11C188)では、自動車が走行時にスピードを落とし、歩行者の往来や通行が優先される工夫や、歩道と車道境界部の段差を小さくするなど、駅前広場とのつながりを感じられる工夫をしたい。

考え方② 大きなイベント時は、車両通行止めにして利活用できるように設え方を工夫

- 車両を通行止めにした利活用に配慮し、西側の空間を広く確保するため、車両乗降場の位置を東側にするとともに、交通島は段差をなくし、ポラードを設置する場合には取り外し式にするなどの工夫をしたい。
- 通常時利活用できるスペースや利活用に必要なものを収納するスペースなどは、歩行者動線や滞留空間の妨げにならないよう配慮し、工夫して設置したい。
- 利活用に必要な電源や水道を設置したい。



段差のない交通島のイメージ

考え方③ バスやタクシー、一般車両が駅前広場にアクセスし、円滑にかつ快適に乗換できる一方で、車両が長時間滞留しないような取組みを工夫

- 雨に濡れずに乗り換えができるよう、駅から車両乗降場まで連続した屋根を設置したい。
- バス乗り場やタクシー乗り場にはベンチを設置したい。
- 周辺への排気ガスや騒音に配慮し、車両のアイドリングストップをするなど、長時間滞留しない工夫をしたい。

考え方④ まちの玄関にふさわしい景観及び施設デザインの駅前広場

- すべての施設は、景観の統一感やデザイン性を重視し、ナチュラルなイメージで景観を統一したうえで、部分的にオリジナリティあるアートなデザインを取り入れ、駅前広場全体がまちの玄関にふさわしい空間となるよう設えの工夫をしたい。
- 駅舎と車両乗降場をつなぐ屋根は、視界を遮らない透明感のあるものにした。
- 南口側については、歩行者動線を除いた空間に、屋根や案内板、ベンチ等を設置し、親しみのある待ち合わせスペースとなるよう設えとしたい。
- 植栽は、高低差部分に整備する階段の間など歩行者動線や利活用の妨げにならない箇所を確保し、可動式のフラワーポットやベンチで休憩や交流の場の創出をしたい。
- 換気塔は、可能な限り小さく圧迫感のないものにしたうえで、まちのシンボルとなるよう形状やデザインに配慮し、他の機能で利活用できる工夫をしたい。
- 整備にあたっては、コストや維持管理に配慮し、また経年劣化の少ない素材にするなどの工夫をしたい。
- 雨の日のイベントにも対応できるように、大屋根などを景観や維持管理に配慮したうえで設置したい。



ナチュラル系の舗装のイメージ



オリジナリティのあるアートなベンチのイメージ



階段の間を活用した植栽のイメージ



利活用イメージ写真



広場でのイベントのイメージ (車両通行止めにした利活用時)



広場でのフリーマーケットのイメージ (車両通行止めにした利活用時)



広場でのイベントステージのイメージ (車両通行止めにした利活用時)